

## 法律事務所で働き始めて

今年の4月から法律事務所で働き始めた。民間企業に勤務していた昨年末、現在私の勤務する事務所が労働分野で活躍していることと、同時に事務員を募集しているのを知った。関心をもち、受験したところ運よく採用された。

法律事務所職員  
金田 健太郎

### 入所前の法律事務所のイメージ

今の事務所に採用された時、期待と意欲に満ちていた私だが実際に法律事務所がどのようなところであるのかを理解していなかった。また、これまでの人生で弁護士と接することもなかったし、特に知り合いもいなかった。なので弁護士と仕事をするイメージも特にもてなかった。

そして、事務員がどのような仕事をするのかも分からなかった。弁護士のもっている事件の資料を集めたり、書類を作成するののかというイメージであったが、資料や書類がどのようなものなのか想像もつかなかった。

### 入所初日の出来事

法律に関して知識も経験もない私だったが、入所初日に印象に残る出来事が起きた。先輩の事務員と裁判所へ外回りの仕事に出たことである。それまで私は東京地裁が霞が関にあることも知らなかったし、裁判所イコール法廷というイメージももっていた。しかし裁判所が多く部署に分かれ、様々な問題に対応することを知り予想以上のスケールに驚いた。このような所に今後は出入りするのと思うと、私は今までと違う世界に飛び込んだのだと実感し、身の引き締まる思いがした。

### 実際に業務を行ってみて

私の働く事務所は弁護士28名、事務局15名が所属している。事務局の業務は法律事務を行う「部付」、電話対応中心の「受付」、接客中心の「受付」、会計業務全般の「会計」に分かれている。入所後3ヶ月間は「接客受付」、「法律事務」、「電話受付」を1ヶ月ごとに行い、

その後「電話受付」で仕事をしている。

「電話受付」に少し慣れてきて最近、意識することがある。初めて弁護士に依頼する方は「突然、職場を解雇された」、「多額の借金を背負ってしまった」など大きな不安をもって電話をかけてくる。その依頼者の多くが初めて法律事務所に連絡をしてくる。私が初めに電話に出ることも多いので、落ち着いて簡単な相談内容を確認し、リラックスしてもらい、弁護士に繋いでいきたい。

また、依頼者は勿論、裁判所、相手方は少しでも早く事件を解決に導きたいので早く弁護士と連絡をとりたいたいものだ。また、弁護士もそれらの方から連絡を待っていることもある。しかし、実際のところ弁護士は外出が多い。電話やFAXで受けた情報をすぐに弁護士にリリースできず、事件が進みにくいし、依頼者は抱えている問題を弁護士に伝えられず不安になる。そんな時に「受付」は情報を受けるのみでなく、電子メール、携帯電話、FAXを駆使し、弁護士に情報をリリースしていく役割も重要であると感じる。

### 事務員としての今後

現在、「電話受付」中心の仕事だが電話の向こうにある依頼者の生活を考えてしまう。今後、所内で別の業務を行うとしても、自分の仕事が依頼者と繋がっていることを感じていきたい。私の勤める事務所の弁護士は市民や労働者の生活や権利を守るためにいつも全力で取り組んでいる。その弁護士の仕事に貢献し、すこしでも依頼者の役に立ていける事務員に成長していきたいと思う。